文殊小学校だより

令和5年度　第14号
発行日　令和6年3月22日（金）

「文殊っ子日記」はこちら→

令和５年度　大変お世話になり　ありがとうございました

先日は卒業証書授与式が行われ、２２名の卒業生が立派に本校を巣立っていきました。

保護者の皆様や地域の方々には、６年間大変お世話になり感謝申し上げます。今後とも、「地域の宝」である子どもたちの成長を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

さて、本日で令和５年度の教育活動が修了します。この一年間、子どもたちは毎日笑顔で登校し、いろいろな活動に一生懸命取り組み、心も体も大きく成長しました。４月には新しい学年に進級しますが、これからも、さらなる成長を目指して、頑張ってくれることを期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様や地域の方々には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき改めて感謝申し上げます。来年度もよろしくお願いいたします。一年間、ありがとうございました。

（校長　〇〇〇〇）

○3月12日　卒業証書授与式

祝　卒業おめでとうございます

祝　表彰

・春季全日本小学生男子ソフトボール大会全国大会出場［3/30～4/1　群馬県渋川市］
　福井イーストクラブ（合同チーム「羽水」）　〇〇〇〇（５年）　〇〇〇〇（５年）
・福井県小学生バレーボール大会　オザキ杯
　優勝　清水Ｊｒバレーボールクラブ　〇〇〇〇（３年）

卒業式　校長式辞から

（前略）

文殊小学校を巣立っていく２２名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今ほどは、皆さん一人一人に卒業証書をお渡しし、壇上で卒業証書を受け取る凛々しい姿を会場の皆様にご覧いただきました。今、皆さんが手にしている卒業証書は、「六年間の努力の結晶」です。一人一人の「成長の証」として大切にしてください。

さて、私が皆さんと一緒に過ごした学校生活は、たった１年間だけではありましたが、様々な学校行事をはじめ、縦割り活動や委員会活動など、いろいろな場面で、文殊小学校の最高学年として、学校の先頭に立って活躍し、学校生活をより楽しく、より良いものに導いてくれた皆さんは、とても頼もしい存在でした。

また、４年ぶりに開催された連合音楽会では、５年生とともに参加し、歌に想いをのせながら、美しい歌声を披露することができました。さらに、有志の合唱団を立ち上げ、ＮＨＫ全国学校音楽コンクールにも参加し、東海北陸ブロック大会では、初出場ながら、見事銅賞を獲得しました。こうして、皆さんが中心となって作り上げた文殊小学校の歌声は、誰の心にも優しく響き、多くの人たちに感動を与えました。純粋で、素直な皆さんだからこそ、成し得たことと思います。

そして、小学校生活の一番の思い出となる修学旅行は、念願かなって、全員で参加することができました。久しぶりに登校する仲間を気にかけ、自然な笑顔で迎える皆さんの姿から、この文殊小学校の６年間で築いた仲間との絆の深さを感じました。当日は、行きのバスの道中から、すでに盛り上がり、しかし、訪問先では、時間を意識してけじめある行動、夜の大観覧車から見た臨海の素晴らしい夜景に目を見開き、一番楽しみにしていたＵＳＪでは、自分たちでルールを決めた私服での行動と、終始、思いっきり楽しんでいる皆さんの笑顔、とても最高でした。

このように、この１年間を振り返っただけでも、皆さんから、たくさんの喜びと元気をもらうことができました。

そこで、４月から中学生となる皆さんに、２つのことをお願いします。

１つ目は、出会いを大切にしてほしいということです。

人の一生は出会いの連続であり、その一つ一つの出会いを大切にすることが、人間としてより成長し、豊かな人生を送ることにつながります。

皆さんは、これまでにも多くの「出会い」がありました。ここにいるクラスの素敵な仲間や、先生との出会いもその一つです。また、人との出会いだけではなく、自分の目標となることや、夢中になれる好きなことや得意なことも「出会い」の一つです。これからは、どんどん自分の世界が広がり、さまざまな出会いがあると思います。自分の人生を決定するような出会いもあるかもしれません。

私ごとですが、中学校１年の担任の先生が音楽の先生でした。その先生に、自分の声の良さを褒めていただいたことが「私と音楽」との出会いとなりました。歌うことが好きになり、音楽の素晴らしさを体感した私は、いつしか恩師のような音楽の教員になりたいと思うようになったのです。この出会いがなければ、今こうして、皆さんの前に立つことはなかったかもしれません。皆さんも、是非、様々な出会いを大切にしてください。

２つ目は、夢や目標を持ち、何事にも積極的にチャレンジしてほしいということです。

チャレンジすることは、自分の可能性を広げることにつながります。皆さんの可能性は無限大です。しかし、チャレンジする前に、あきらめてしまったことはないでしょうか。

先日、大谷翔平選手から、全国の小学校にグローブが贈られ、本校にも届きました。このグローブには、次の世代に夢を与え、勇気づけたいという大谷選手の想いが込められています。大谷選手は、昨年も、ピッチャーとバッターの二刀流として大活躍し、日本人として初めてアメリカ・メジャーリーグのホームラン王を獲得し、最優秀選手にも選ばれました。そんな大谷選手の活躍の原点は、高校時代の恩師である監督から送られた、「先入観は可能を不可能にする」という言葉です。これは、今も尚、道なき道にチャレンジする大谷選手の原点となる考え方です。当時、ピッチャーとして150キロを目標としていた大谷選手は、監督から160キロを目標にしようと言われたそうです。これまで高校生が誰も成し遂げていない目標は無理だと考えた大谷選手ですが、監督のこの言葉から、最初から出来ないと決めつけるのはやめようと、先入観を捨てて取り組んだ結果、高校三年生の夏の県大会で、見事、前人未踏の160キロを記録しました。「無理だと思わないことが一番大事なこと、無理だと思ったら終わりです。僕はやれることはすべてやりたいし、とにかくやってみたいんです」という大谷選手の言葉は、チャレンジ精神にあふれています。これから皆さんの心や体は大きく成長していきます。自分の可能性を信じて、夢や目標に向かって、粘り強くチャレンジしていくことを期待しています。

（後略）